

科 名：産科・婦人科



副院長
高倉 賢二

専門医資格等 日本産科婦人科学会専門医
日本婦人科腫瘍学会専門医
日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
京都大学医学部臨床教授
三重大学医学部客員教授
関西医科大学臨床教授

専門分野 婦人科腫瘍
産婦人科手術
内分泌疾患の診断治療
不妊症の診断治療

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏 名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医療情報部長	北岡 有喜	日本産科婦人科学会専門医	生殖分子生理学・医療情報学・情報システム学	
婦人科医長	徳重 誠	日本産科婦人科学会専門医・日本産婦人科内視鏡学会技術認定医・母体保護法指定医・日本内視鏡外科学会技術認定医	腹腔鏡下手術・婦人科手術	婦人科腫瘍・子宮内膜症
産科医長	山本 紳一	日本産科婦人科学会専門医・母体保護法指定医・京都大学 医学博士		婦人科がん
婦人科医長 外来医長	高尾 由美	日本産科婦人科学会専門医・京都大学 医学博士	生殖内分泌学	婦人科がん
産科医長 産科病棟医長	江川 晴人	日本産科婦人科学会専門医・京都大学 医学博士・専門医制度暫定指導医・日本周産期新生児医学会	周産期一般・更年期	
婦人科病棟医長	関山 健太郎	日本産科婦人科学会専門医・婦人科腫瘍専門医・日本婦人科腫瘍学会	腹腔鏡下手術	婦人科がん
産科医師	伊藤 美幸	日本産科婦人科学会専門医	腹腔鏡下手術	婦人科一般
産婦人科医師	山西 優紀夫			
レジデント	上田 優輔			
専修医	今井 更衣子			婦人科一般
専修医	坂田 亜希子			

□診療科の特徴

- 安全で、妊婦さんひとりひとりが心から満足のいく分娩を、ということが私たちのモットーです。
女性にとって、お産は重要なイベントです。そして、それぞれのお産についての妊産婦さんの考えや要望は年々変化してきています。私たちは、お産の質の向上、および医療者側のお産に対する的確な対応が、ますます大切なものとなってきていると考えています。
- 症状や診察所見に基づいて、患者さんひとりひとりの病状に合わせた治療、すなわちテーラメードな治療を行うことを基本方針としています。また、婦人科のみで診療にあたるのではなく、麻酔科、外科、泌尿器科、放射線科、腫瘍内科などの関連科と連携し、患者さんにとっての最良の治療を考え、実施していきます。

□診療(業務)内容

産科

●妊婦健診 ●分娩(出産) ●産前・産後の母乳ケア

年間600例の分娩を取り扱っています。

産科外来に病棟助産師が立ち会い、継続して保健指導を行っています。安心して出産を迎えることができます。

婦人科

1. 悪性腫瘍(子宮がん・卵巣がん)に対して充実した診療を行います

当院は、京都府のがん診療拠点病院に指定されています。また、2007年4月より、婦人科腫瘍が専門の藤井信吾前京都大学婦人科学産科学教室教授が病院長に就任し、これまで以上に子宮がん、卵巣がんなどの婦人科悪性腫瘍の診断と治療に重点をおいた診療を行っています。

2. 子宮頸がんの治療は、手術後のQOL(生活の質)に配慮して行います

子宮頸がんの治療には、広汎子宮全摘手術が標準として行われていますが、術後の排尿障害が大きな問題でした。当院では手術方法を改良し、根治性を保ちながら可能な限り排尿神経を温存する手術を行います。術後の排尿障害に対しても良好な結果を得ています。また、かつての広汎性子宮全摘術の際には出血量が多くなり輸血が必要となるケースがありましたが、当院では丁寧な出血の少ない手術を行うことにより輸血を回避しています。

3. 高い専門知識をもって抗がん剤治療、放射線治療を行います

がんの治療には手術とならんで化学療法(抗がん剤治療)が重要な役割を果たします。当科では、抗がん剤治療の経験豊富なスタッフが抗がん剤治療を行います。また、当院には腫瘍内科医も常勤しており、必要に応じて連携して治療方針を決定します。さらに、抗がん剤の副作用の予防・緩和についても、十分な知識をもって対応します。放射線治療が適切と判断された場合には、当院に常勤している放射線治療専門医と連携して放射線治療を行います。また、当院は京都大学とも連携しており、当院では設備のない小線源腔内照射などの特殊な治療については、京都大学放射線科の協力が得られる体制を整えています。

4. 良性腫瘍(卵巣腫瘍・子宮筋腫)の治療は、患者さんのQOLに配慮して方針を決定します

良性卵巣腫瘍や子宮内膜症、子宮筋腫などの治療については、患者さんにとって何が最善の方法なのかを、症状や診察所見に基づいてカウンセリングしながら決定します。将来は妊娠をしたいのかどうか、筋腫の増大傾向があるのかどうか、手術をするのか、するのならどのような手術法を選択するのか、それとも薬で治療が可能なのか、細やかに対応します。

5. インフォームド・コンセントを重視します

十分な説明を行い、納得いただいたうえで治療を行うことにより、満足の得られる医療を行うことを診療のモットーとしています。また、疾患について画一化された治療を行うのではなく、それぞれの患者さんの身体的・精神的・社会的状況や希望なども十分ふまえたうえで治療方針を決定します。

産科入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	15.4	661	8.5

産科外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	17.5	48.4%	36.3%

婦人科入院患者数

	1 日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	20.8	835	9.2

婦人科外来患者数

	1 日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	55.2	62.6%	18.1%

主な手術・検査の件数など

	分娩件数	帝王切開件数	開腹手術	腹腔鏡下手術
2011年度	576件	166件	215件	86件

□学術活動報告(学会・研究発表など)

場 所	内 容
第29回日本受精着床学会学術講演会	『射出精子を用いた人工授精・ICSI後にTESE-ICSIにて妊娠・出産に至った精管精管再吻合術後の1症例』 高尾 由美
第56回日本生殖医学会学術講演会	『モノアミノオキシダーゼAはヒト妊娠黄体細胞に発現する』 高尾 由美
第12回近畿産婦人科内視鏡手術研究会	『妊娠中の破裂により壁側腹膜に固定された成熟嚢胞性奇形腫の1例』 上田優輔
第63回日本産科婦人科学会学術講演会	『膀胱壁に浸潤する前置穿通胎盤が疑われた症例に対する保存的治療の経験』 上田優輔
第50回日本婦人科腫瘍学会	『外陰に発生した腺様嚢胞癌(adenoid cystic carcinoma: ACC)の一例』 上田優輔

□投稿論文など

年	内 容
2010.4.10 発行	メジカルビュー社 (東京) 単純子宮全摘術の手術解剖、OGS Now No.2 腹式単純子宮全摘術 必須術式の完全マスター (編集:平松祐司、小西郁生、櫻木範明、竹田省)、p.32-41 高倉賢二、樋口壽宏、勝矢聡子
2011.5.1 発行	メジカルビュー社 (東京) 子宮体癌の基本手術、OGS Now No.6 子宮体癌・卵巣癌の手術基本術式と腫瘍進展に応じた戦略 (編集:平松祐司、小西郁生、櫻木範明、竹田省)、p.14-33 高倉賢二
2011.5.9 発行	中山書店 (東京) スタイン・レーベンタール症候群、症候群ハンドブック (総編集:井村裕夫、編集:福井次矢、辻省次)、p.442-443 高倉賢二
2011	日本婦人科腫瘍学会 術前のMRI鑑別診断に苦慮した卵巣原発非ホジキンリンパ腫の1例 29(1):123-128 関山健太郎、天野康彰、徳重誠、井上卓也、藤井信吾
2012.3.31 発行	診断と治療社 カラーアトラス臨床解剖学に基づいた新版産婦人科手術シリーズ I 藤井信吾、落合和徳、関山健太郎
2012.1.15	じほう 44.女性生殖器用薬ー子宮収縮薬、子宮収縮抑制薬、子宮内膜症治療薬〔総説〕. 治療薬ハンドブック2012薬剤選択と処方のポイント(監修:高久史麿)、p756-759 関山健太郎、藤井信吾